定通部だより

2011 年
８月２０日発行
第３号
発行責任者
今泉　宏

ホームページ　　http://nagasaki-kokyoso.org
メールアドレス　info@nagasaki-kokyoso.org

2011 年度日高教定通部総会ならびに全国定通教育学習交流集会

月　日　７月２９日（金）～３１日（日）神戸市勤労会館
参加者　教　諭　濱本　功二（大村定）　今泉　宏（鳴滝夜）
　　保護者　村上　良子（鳴滝夜）
　　生　徒　村上あゆみ（鳴滝夜）

講　演　湯浅誠さん（反貧困ネットワーク事務局長）
『貧困により「教育・福祉・医療などから排除されている」青年問題について』

日本の「社会」は「３つの傘」の内に入っているか、外にあるかである。１つ目は、「国」の傘の下に「企業」があり、２つ目が「企業」の傘の下に「正社員」や「下請」があり、３つ目が「正社員」や「下請」の傘の下に妻、子、高齢者などの家族がある。しかし、日雇い労働者や母子家庭はそれらの傘の外にあるので、いろいろな恩恵を受けられない。そして、それらの傘は、1990 年以降、この傘が閉じられる方向にある。（狭められている）この傘の内にいるのか外にいるのかで生きていく上で圧倒的に有利なのか、不利なのかに分かれる。傘の外にいる人は、経済的な貧困ばかりではなく、世間体や自己評価も違ってくる。企業は、企業の傘の内にいる正社員を基準に考えている。「変わらない家族」と「急速に変わっていく家族」の二極化が進んでいる。つまり、企業の傘の内にいる人たちは、今まで「普通」の家族と考えられていた家族のままで、企業の傘の外にある人たちは、「急速に変わる家族」しか作れない。（例）「一人家族」、「一人親家族」、「高齢者と子どもの家族」など。社会と切り離された人たちが社会復帰するには、「放置された時間」と「回復する時間」は同じくらいかかる。

国会で多数派を作るための世論を作る必要がある。個人の役割としては、周囲を説得していくしかない。日本人は意見の違う人とコミュニケーションをとることが苦手である。自分がどういう役割を果たせるか、何ができるのかを追求していくしかない。一粒たりとも無駄にしない社会を作る必要がある。

湯浅さんは今までに２０００人のホームレスの人の保証人になっているが、トラブルに発展したケースは３%である。

（感想）１０数年の実践活動から導き出された説明で、たいへん理解しやすく、説得力があった。何よりも、話し方や話の内容から、湯浅さんの人柄が自然に伝わってきて、さらに理解が深まり勇気をもらった。

子どもの貧困と教育

(1) 特別報告①

「スクールソーシャルワーカーの仕事」

[野尻紀恵さん：スクールソーシャルワーカー]

スクールソーシャルワーカーがいたら、生徒の家庭と教師との間に入って、地域での情報などを得やすくなる。大阪府茨木市には全中学校にスクールソーシャルワーカーが配置されている。また、関西では大体の小学校区にコミュニティソーシャルワーカーがいる。学校にスクールソーシャルワーカーがいたら、教師、スクールカウンセラー連携して問題を抱えた家庭に当たれる。

（感想）学校にスクールソーシャルワーカーがいたら、今抱えている生徒に関する多くの問題の解決の糸口を見つけることができるかもしれないと思った。多くの参加者がこの制度や職業を知らない様子だった。もっとよく調べて、県教委などの関係機関に具体的に運動として要求していきたい。

神戸に残る明治期の建造物

(2) 特別報告②　「一人親家庭の子どもの貧困」

[大森順子さん：しんぐるまざあず・ふぉーらむ関西事務局長]

大阪府西成高校での実践、「チャレンジ学習」という講座で、生活設計の授業をしている。そこでは、結婚、出産、子育てなどのディベート方式の授業をしたりしている。大人との関わりが子どもを育てる。

シングルマザーは、「バツイチ」とか「結婚に失敗した人」というのではなく、ひとつの生き方であると捉えるべきである。たまたま母と子の家庭である。母子家庭でも生活保護を受けている家庭は１０～１５％である。→生活保護を受けることへの抵抗を持っている人が多い。税金を払っているので（義務を果たしているので）生活保護は一つの選択（権利）であると考えるように固辞している人に言っている。

（感想）一人親家庭が多い定時制の生徒も特殊なケースではなく、ひとつの家庭のあり方であるという認識を持つことが必要であるということが分かった。また、大阪の西成高校で行っている授業は、生徒が卒業後、直接出くわすようなケースが多い問題なので授業風景を一度見てみたい気がした。

野尻さんも大森さんには、県教研や支部教研で長崎県の先生方にも話していただきたいと感じた。

⑶「高校生フォーラム　授業料の無償化について」

［コーディネーター：多田正司さん（姫路北高校）］

［コメンテーター：西村貴之さん（首都大学東京　助教）］

参加高校生　①大阪春日丘高校　②大阪春日丘高校　③大阪布施高校

④愛知刈谷東高校卒業生　⑤長崎鳴滝高校　計５人

（感想）無償化、授業料以外何を無償にして欲しいか、１０年後の自分という質問が行われ、フォーラムが進められた。親からお金を出してもらっている生徒にとっては、「高校の無償化」については生徒自身は、あまりピンときていないようだった。しかし、それぞれの生徒がしっかりした自分の意見を持っていて感心した。鳴滝夜間の村上さんもよく考えて発言していた。

⑷特別報告③「昼間定時制開設の経過と現状」

［谷川新一さん ＆ 藤岡靖子さん（神戸市高・摩耶兵庫高校）］

昼間部を作るようになったとき、昼間部と夜間部の職員を分けずに、昼間部を午後からの授業とし、同じ勤務時間で、昼間、夜間の両方の授業を担当することになった。昼間の担任、夜間の担任がひとつの職員室におり、授業も両方受け持ち、１日８時間の授業が行われる多忙な学校で問題点が多いように感じた。

⑸特別報告④「大阪（府）の三部制高校、『クリエイティブ・スクール』について」

［与田徹さん　（大阪府高教・副委員長）］

全日制の高校を２０校もつぶすなど、大改悪の教育行政が行われ、それに代わる６つの新しい学校を作ったが、矛盾が噴出し、行政もそれに気付いたようだが、引っ込みがつかず、現場はたいへんな状況になったようである。

１部（午前）、２部（午後）、３部（夜間）の三部制で、学校（教室）をフル活用していて余裕がないように感じた。

本県でも昼間部の存在意義が問題となっているが、全国的に昼間部はいろんな問題を含んでいるように感じた。これから、昼間部をどのような学校としていくかが、定通部の１つの課題と感じた。

⑹パネルディスカッション「無償教育に向けてこれからの展望を見出す」

［コーディネーター］西村　貴之さん（首都大学東京　助教）

［パネラー］　居神　　浩さん（神戸国際大学　教授）

三輪　定宣さん（千葉大学名誉教授）

中塚久美子さん（朝日新聞記者）

修学奨励貸与金など、卒業しないと返還しなければならない奨学資金は、進級できたらその年度は返還免除ができるように制度を変えたほうがいい。授業料無償化は「社会で教育、子どもを支える」ということの第１歩、教育の無償化につなげていかなくてはならない。修学補助などの様々な事務手続きが煩雑であるので、事務職員も増員されるべきである。学習権は生存権である。ソーシャルワーカーや地域のサポートステーションなど教育が福祉任せになっているのはいかがなものか、というような意見が出された。

（感想）大学の先生方と新聞記者の話で少し堅かった。湯浅さんや野尻さん、大森さんのように現場で実践している人の話が説得力があると感じた。

参加保護者の感想

娘を通して、大変貴重な時間を過ごさせていただき、ありがとうございました。

このような大きな大会に初めて参加させていただきましたが、全国の定時制・通信制高校の先生方の意見交換や要望など聞くことができて、大変勉強になりました。先生方の「子どもたちへの熱心な想い」、日々の御苦労も改めてわかり、これまで自分が気づかなかったことを知る良い機会になりました。また、高校生フォーラムでは、高校生の生の声も聞くことが出来て、高校生それぞれの想い、将来に向けて真剣に考えている様子、学校や仕事への取り組みの様子などを知ることができました。そして、講演や特別報告は講師の先生方の話がわかりやすく、パワーをいただきました。

私が最も重要だと感じたのは、今回のテーマにもある「つながり」ということで、お互い本音をぶつけ合って話し合う場が必要だと感じて帰ってきました。　**村上　良子（保護者）**

参加生徒の感想

今回初めて「全国定通教育学習交流集会」に参加させていただき、ありがとうございました。各地の先生方や生徒のみなさんの意見を聞くことができました。これまでこのような機会が無かったので、他の人の考えがわかりませんでしたが、今回参加して、県は異なっても同じように苦しんでいる生徒、苦悩を抱いておられる先生方いるということがわかりました。

私は「高校生フォーラム」に参加しました。この中で「教育の無償化」について考え、みんな自分の意見をそれぞれ述べました。「無償化」の問題は私には難しく、わからないことがたくさんありました。しかし、参加した高校生はみんな真剣に考え、自分の意見をしっかり持っていることがわかりました。

私は今、何の苦労もなく定時制高校に通うことが出来ていますが、県や地域によっては様々な問題を抱えているところがあることを知りました。自分は恵まれていると思い、ますます今の高校生活を頑張りたいと思いました。

今回このような集会に参加させていただいたことを嬉しく思い、感謝の気持ちで一杯です。自分自身成長できたような気がします。学んだことを今後に活かし、これからの高校生活につなげていきたいと思います。　**村上　あゆみ（生徒）**

来年度は、宮城県で開催予定